

雑餉隈遺跡

大野城市教育委員会



写真1 発掘調査の様子



雑餉隈遺跡の位置

雑餉隈遺跡は、大野城市雑餉隈三丁目にあります。近くには江戸時代に大名が参勤交代の途中で休息した場所(「御茶屋跡」と呼ばれています)があり、昔から人々の往来がにぎやかだったことがわかっています。写真2は昭和30年代に御茶屋跡にあった建物の様子です。



写真2 御茶屋跡(赤司岩雄氏提供)



写真3 遺物出土状況



写真4 遺物出土状況



写真5 NVOC模様皿



写真6 出光美術館図録「陶磁の東西交流」1984 より転載



写真7 平成18年の出島(長崎市)

のことです。写真3・4は出土した時の様子です。これらの磁器は、ほとんどが18世紀後半から幕末にかけてのもので、現在の波佐見町で焼かれた普段使いの茶碗が多いのですが、有田町で焼かれた皿や猪口などの高級品もあります。特に注目されるのは、NVOC模様の皿です(写真5)。「VOC」とは「オランダ東インド会社」のことで、写真6はこの模様のついた皿の代表的な例です。このような焼物は、長崎の出島(写真7は現在の出島)を経由して主にヨーロッパへ輸出するために特注でつくられたものです。「N」は注文主の頭文字とも、長崎(Nagasaki)を表すとも言われています。それがどのような理由で輸出されず、雑餉限遺跡にもたらされたのか、まだよく分かっていません。